

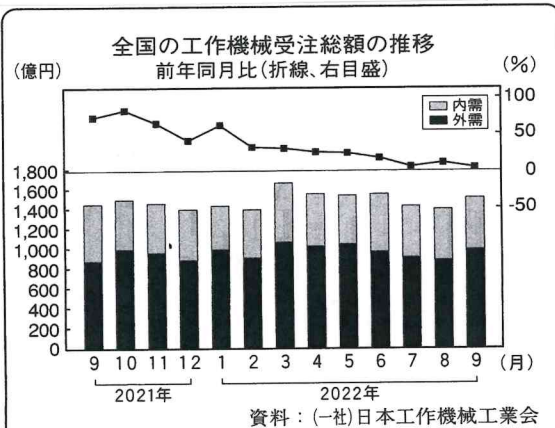
謹んで新春のお慶びを申し上げます

2022年は、新型コロナウイルスへの対応が進展し経済は回復基調となったものの、世界的な需要急増に供給が追いつかず資源価格が高騰。また、ロシアのウクライナ侵攻がエネルギーや食料の調達不安につながり、物価高騰が顕著となった。さらに、米国をはじめとした世界の主要な中央銀行は大幅な利上げによりインフレの抑制を図っているが、我が国は景気の下支えを重視した日銀の金融緩和策の継続により円安が進行し、輸入物価が高騰するなど企業や家計に大きな影響を及ぼす1年だった。日銀は昨年末に実質的利上げ政策を実施したが、2023年に物価や供給が安定したものになるかは不透明な状況にある。

当団地内の多くの企業も、このような世界的な情勢悪化の影響を多大に受け厳しい経営環境にあると思います。このような時代の今こそ、自社の将来像を確実に俯瞰して自社の強みと弱みをしっかりと認識し、如何に弱みを極小化して強みを増大させるのか、自社でなければ出来ない「強み」とは何なのか、そのためには大きな「変化」も必要なのか等々、従業員と共に考え未来に向かって変革していく年としていただきたいと思います。

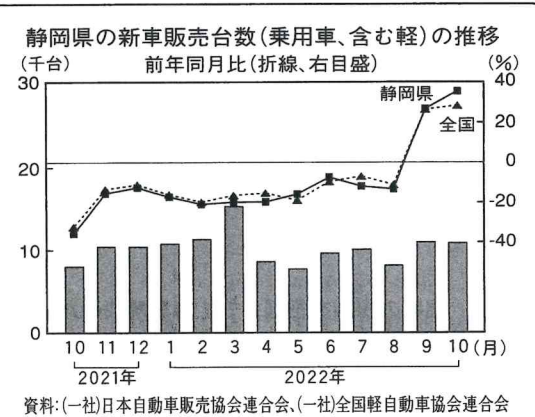
以下は静岡経済研究所の景況レポート「静岡県の経済指標の動き」からの抜粋です。

謹
賀
新
年



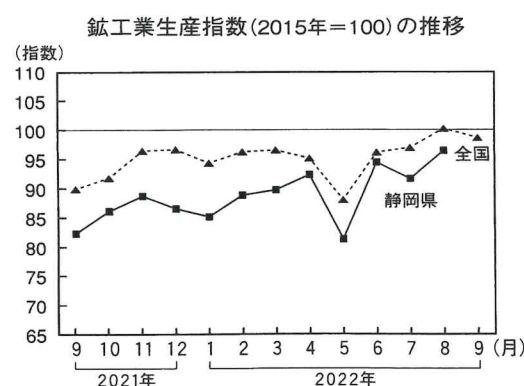
9月の工作機械受注総額(全国)は1,508億4,800万円で前年比+4.3%と、23カ月連続でプラスとなった。

内訳は、内需が524億1,900万円(前年比△8.9%)で19カ月ぶりに前年比マイナスとなったが、外需は984億2,900万円(同+13.1%)で23カ月連続して前年を上回った。



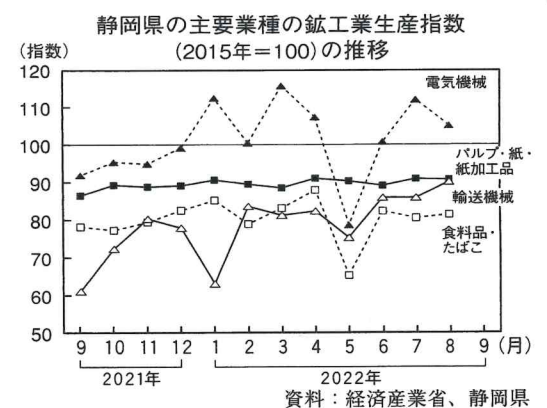
10月の静岡県内の新車販売台数(乗用車、含む軽自動車)は10,809台で、前年比+35.4%と2カ月連続で大幅なプラスとなった。

車種別では、普通・小型車が5,862台(前年比+31.2%)、軽自動車も4,947台(同+40.9%)と、いずれも2カ月連続の大幅プラス。



8月の静岡県の鉱工業生産指数は96.4(季節調整済、2015年=100)で前月比+5.2%と2カ月ぶりに上昇したが、16カ月連続で100を下回った。

主要業種(季節調整済)では、電気機械105.1(前月比△6.1%)が低下したものの100超を維持。パルプ・紙・紙加工品90.7(同△0.2%)はわずか



に低下したが、輸送機械90.1(同+4.9%)は昨年4月以来の90台を回復し、食料品・たばこ81.4(同+1.1%)も上昇した。

その他では、汎用・生産用・業務用機械133.8(同+38.1%)、プラスチック製品101.0(同+0.8%)などが上昇、化学108.9(同△3.6%)などが低下。